みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目 三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140 炭鉱474・528
※責任者＝文教部長 川畑信子

婦人の向上目指し

第二回 大牟田婦人大会開く

十二月四日の日曜日、大牟田市中友小学校で第二回大牟田婦人大会が開かれました。大牟田市総合婦人協議会、市教委、選挙管理委員会の主催で、各婦人団体が身近かな問題について話し合い、お互いの理解を深めると共に、婦人の地位教養を高める目的で開かれたものです。

十二分科会で討議

午前九時半、各婦人団体から集まつた約六〇〇名の婦人は、地域婦人会、くらしの会、自労婦人部、教組婦人部、子供を守る会、職員婦人会、三池主婦会、母と女教師の会、農協婦人会、母子福祉会、の十団体で、午後一時まで十二の分科会にわかれて話し合いを深めました。各分科会の司会者には各団体から代表を出し、三池主婦会は、第五と第九分科会の司会を行ないました。

分科会は、六六式討議という方法ではじめられました。分科会の参加者は平均五〇名で、六人づつのグループにわかれて、話し合いを能率的に行ないましたが、分科会の内容は次のようなものです。

1、原水爆禁止運動と婦人
2、家庭学習をどう進めるか（小学A一、二、三年）
3、家庭学習をどう進めるか（小学B、四、五、六年）
4、家庭学習をどう進めるか（中高学）
5、青少年に良い環境を与えるために私たち婦人はどうすべきか
6、思春期の子供の取扱い。
7、父母婦人の立場から道徳教育に何を望むか。
8、国民年金をめぐる諸問題。
9、新しい家庭関係はどうあるべきか。
10、私たちの老後を明るくするには。
11、働く婦人の諸問題。
12、良い集りをつくるには。

各分科会で話し合つたことを午後一時半からのパネルフォーラムという新しい形式で報告が行なわれました。（各分科会の代表十二名が舞台に並び、一人の司会者の質問に答えて、分科会で話し合つたことを報告するもの）

世の中の仕組みを子供に教えよう

つぎに、三池主婦会の代表が司会をした分科会の内容をまとめてみました。

【第五分科会】青少年によい環境を与えるために、私たち婦人はどうすべきかということで討論が行なわれました。司会は港務支部古賀澄枝さん。

子供たちをとりまく環境を社会と家庭にわけて、まず家庭環境をよくするために次のような意見がでました。

1、親と子の話しあい（たとえば家族会議）
2、何でも話しあえる母親になるため、子供を理解するように努める。
3、親として子供にはずかしくない親になろう。
4、世の中のしくみを子供にわからせよう。
5、親の言葉が子供に与える影響を考えてみよう。
6、家の経済状態をある程度子供にしらせよう。
7、お互いが人格（立場）を尊重しよう。
8、母親同志の話しあいをしよう（知恵の出しあい）
9、子供の友だちの親同志が仲よくし、話しあいをすすめよう。

政治にもつと関心を

つぎに社会環境をよくするためには次のような意見がでました。

1、小学生のときから職業教育をしてもらおう。
2、道路交通法をまず親たちから守ろう。
3、子供に生きる希望を与えよう
4、低賃金をあげてもらうために政治に関心をもとう。
5、一人ひとりが考える人間になろう。
6、マス・コミから子供を守ろう。
7、このような会合にひとりでも多くのお母さんに参加してもらおう。

不良化した子供をどうするかという問題については時間がなく、話しあえませんでした。また、全国的にひろがり恐怖をまきおこしている小児マヒ対策について、市長、知事、政府に予防ワクチンを、イデオロギーをこえて輸入するようはたらきかけたいという動議が出されたのですが、動議とはせず、午後の全体会議の中で、みんなに知らせることにしました。

無心にねむるこの子らの未来のために・・・

▽一九六〇年△ 国際国内 10大ニュース

U2事件で首脳会談流会

五月一日ソ連国防軍はソ連領に侵入して米スパイ機U2をロケットで撃墜、米に謝罪を要求したが、米国はこれを拒否し、五月十五日からの首脳会談は流会した。

クーデター相つぐ

四月の南朝鮮暴動につづいて五月にはトルコで反独裁クーデター、八月にはラオスで中立政権が出現するなどアメリカの支配は大きくゆらいだ。

安保闘争の高揚と岸退陣

五月十九日の安保強行議決から一カ月歴史的な大闘争が展開され、連日の抗議デモ、六・四ストなどを経て岸は退陣したが、七月十九日には池田内閣が成立した。

アイク訪日中止

安保闘争の高揚、六月十日のハガチー・デモにつづいて十五日には全学連の国会流血デモで樺美智子さんが殺され、ついに十六日アイクの訪日は中止された。

ソ連宇宙船で犬生還

八月十九日ソ連は犬二匹をのせた四・六トンの宇宙船を打ち上げ、二十日無事地球に回収した。これによつて宇宙旅行の第一歩がひらかれた。

アフリカ諸国独立

アフリカ諸国の独立が相次いだが西欧諸国はコンゴに干渉して内紛を激化させた。十七の新加盟国をむかえ国連総会ではソ連のフ首相が植民地全廃宣言を提案した。

三池闘争、史上最大の争議に

一月二十五日ロツク・アウト以来労資決戦場となり、のべ三十万人を動員。三月二十九日には久保清さんが暴力団に殺されたが九月六日事態を収拾、十二月一日全面就労した。

右翼の台頭と浅沼暗殺事件

四月二日の松葉会毎日新聞襲撃をはじめ安保デモへのなぐりこみがあり、七月十四日には岸首相が刺された。つづいて十月十二日には浅沼社会党委員長が暗殺された。

米大統領選でケネディ当選

十一月八日米大統領選で民主党のケネディ氏が共和党のニクソンを破つて当選した。ケネディ当選は米国民が冷戦政策を拒否したものとして世界の注目をあつめた。

総選挙で社共進出

岸から政権タライまわしした池田は低姿勢の経済新政策をうちだしたが十一月二十日行なわれた総選挙で自民党はのびなやみ、社共が大幅に進出、民社は惨敗した。

※補欠 ▼炭鉱災害あいつぐ（二月夕張、九月豊州）▼雅樹ちゃん殺し（五月）と凶悪犯罪の続出▼諸物価続騰▼キューバ革命の進展▼ローマ・オリンピック（八月から九月）

※三面下欄よりつづく

がものすごい。

払いでの作業は個人プレーでは危険であり、われわれは皆が一緒にやろうと統一した行動で作業している。

とにかく第二の連中は仕事に活気がなく、本当に生産に取組むという気力よりも、係員からいわれたことのみするのだという気持のようである。生産は第二で、まず要領。それも一齊に仕事をやつけてしまうと、つぎの仕事を命じられるのでその辺をうまくやつている。

われわれの方は、しつかり気合をかけてやらねば仕事の能率は上がらないのだと話し合つている。現場は荒れ作業であり、一番重要な先端には第二組合員を配置している。だが、彼らが仕事が十分にできないことは係員も認めているが、われわれに対する嫌がらせか、それとも、仕事はできるのだという実績を彼らに与えるため、または仕事に馴れさせようとしているのかどうか分からないが、そういう嫌がらせ的なことをやつている。

例えばわれわれが彼らの仕事に加勢すると、係員がきて「アンタはやつぱり仕事ができる。アンタにやつてもらわねばやはりいけない」などとここ二、三日おべんちやらを使つている。

つぎに職制の態度だが、非常に低姿勢だが、その形の中で仕事を多くさせようとするため、作業指示の変更が多く見られる。一寸でも暇があれば仕事をさせようとかかつている。

日役のときは時間から時間までこれは徹底している。そのためか職制はしよつちゆうあちら、こちらと廻つて歩かねばならず、われわれよりも忙がしそうで、くたびれかけているのも特徴だ。

差別が大きく表面に出てきているのは繰込である。

先述のように流れ作業の頭を第二組合がもつているが、もう係員も「彼らはサバケヌ、貴方たちにやつてもらわなければならないようだ」といつたり「貴方たちほど第二組合員が仕事ができればよいが……」とこつそりもらすほどになつてきた。

本当に働ける人を欲しがつていることが、そういわせるほどになつてきたわけだろう。

なお、一番心配しているのは一にも二にも生産第一主義がとられ保安が留守になつていることだ。例えばマイトの問題にしろ、小切羽では保安規程では警戒時間は十五分であり、いままでそれを実行してきたが、いまではマイトを打ち、警戒時間はその半分もない。いつ保安規程が改正になつたか係員に質問すると「係長がいつたから」と返事するばかりである。われわれはよほどこんど保安に留意しなければならないと思つている。

こんどの問題だが、やはりわれわれは労働者だ。第二組合員で仕事に馴れないものが、本当にわれわれについてくることができるだろうかと疑問をもつている。彼らとはまだ消えぬ憎しみがあり、仕事の面でかばう気持はない。これは労働者としていけないことだろうが、そういう感情がまだある。われわれの方は結束をかため、将来もまとまつていける自信と確信は十分ある。

仕事の面ではわれわれの方に第二組合員がいろいろ聞きにくることがとても多いし、現場ではわれわれはとても元気だ。

× × × ×

額の前に誓う

港務 新港一主婦

日夜休む間なく、社宅に流れる力強い分会長の声にはげまされ、きようもがんばろうと心を引じめれば、家庭の仕事もふだんより早めにかたづけられる。

こうして、この一年余りの永い苦しい闘いを共にして来た私たちの闘争本部。

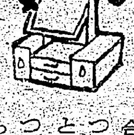
うれしいときも苦しいときもまた心配ごとのあるときも、親のふところへ飛びこむようにして通いつづけた私たちのいこいの場所でありました。

九月二十四日に第二組合の二ユースカー四台が、フルスピードで社宅にはいりこみ、コン棒を振りまわしたときには子供やそばにいた人は闘争本部へ走りこんだ。

私も無意識に闘争本部へ走つた。

目の前には検問所や警察本部があるのに、なぜ私たちは闘争本部に走りこんだか。

闘いの中で私たちの身を守つてくれるのは警察ではなく、組合であつたことを知つたからです。



ホツパー1動員の時に拡張されたピケ小屋が、終戦処理として入札され、つぎつぎと崩されて行く。何千人というオルグの方々の、共に手にして闘つたお皿や弁当箱などが市場のように並べられ、にぎわつていました。

私もその中の一人として見たりクジを引いたりしたが、何んとなく心淋しく、人ごみからそつと離れ、いままで闘つてきたこの建物や品物に「ご苦労さん、サヨウナラ、いつか敵を討つて見せるからね」と心の中で一人つぶやきました。

こうして集まつたお金は、みんなに記念品として団結の「額」が配られることになりました。

私たちは、国家権力を総動員した大弾圧と闘い、いかに苦しくとも労働者としての魂を売ることなくがんばつて来ました。

この額は私たちの子供や孫の代までも誇りとして、いついつまでものこされることでありましよう。今後もこの団結の額を傷つけないように団結を守りぬこうと決心しています。

国民年金 反対の切崩し

ハンコ押すだけにして

国民年金については、その内容が貧乏人に新らしい税金を課するもので、強奪のようにして集めたその金を独占資本に安く貸しつけ、軍備にふりむけようとする悪い政策であることは論をまたない。

総評をはじめ全国の民主団体は、金のタダ取りにひとしい国民年金法をやめさせ、ほんとうに貧乏人や労働者のためになる年金制度をつくれと、闘いをまきおこしている。

三池でもみんなこの国民年金については加入しないということで申告書を出さないでがんばつてきた。そこで困つた政府は卑劣なやりぐちをとるようになつてきた。

というのは十二月七日、宮原社宅の木下弘さんにたいして「国民年金被保険者資格取得届」と題する用紙がくばられた。しかも住所や氏名、生年月日などをみんな書きこまれており、ハンコをおすだけにしてある。サービス上じようではあるが、ついハンコをおして提出したら金をとられるしろものである。

こんなにしてまで、何とか加入させ、反対運動をきりくずそうとするところは三井さんなみだ。木下さんがしらべてみると、近所の全部にきているのではなく、一部の何軒かにおなじようにきていたというから、あきらかに分裂工作である。

絶対にこの手にのらないよう注意して、あくまで国民年金法の改正充実をかちとろう。

電線なしの送電法

さいきんの日本むけモスクワ放送によると、ソ連のウクライナ科学アカデミーは送電線なしで電力を送ることになつた。これは一定の方向にむけられた電波にのせて電力を送るもので、それによつて現在送電線や電柱につかわれている何百万トンの鉄や非鉄金属が節約されるばかりか、畑仕事で電気トラクターを使用するみちもひらかれるという。